

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4170100814
法人名	株式会社 福岡総研
事業所名	鍋島紀水苑 さくら
所在地	佐賀県佐賀市鍋島町蛸久1992番地1 (電話) 0952-33-5551

評価機関名	社団法人 佐賀県社会福祉士会		
所在地	佐賀市八戸溝一丁目15番3号		
訪問調査日	平成 21年1月27日	評価確定日	平成 21年4月25日

【情報提供票より】(平成21年12月21日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 16 年 11 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	10 人	常勤	6 人, 非常勤 4 人, 常勤換算 6, 9

(2) 建物概要

建物構造	木造スレート平屋建て	
	1 階建ての	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	36,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		1,000 円	

(4) 利用者の概要(平成21年12月21日現在)

利用者人数	9 名	男性	0 名	女性	9 名	
要介護1	2 名	要介護2	4 名			
要介護3	1 名	要介護4	2 名			
要介護5	名		要支援2	名		
年齢	平均	84 歳	最低	75 歳	最高	90 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	うえむら病院 森永歯科クリニック
---------	------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

天山山地を北西に遥かに望み、施設のホールや居室の窓からは、豊かな田園風景を居ながらにして楽しむことができる。「自然環境の中で、季節や文化を通じて感性・感情を呼び起こす」と運営理念にあるように、ここでの生活のひとつひとつに職員の心遣いが現われている。食事の時のランチョンマットや食器、置物などへのこだわり、季節を演出した壁飾りなど一人ひとりの思いや生活を大切にしながら、ゆっくりと時間が流れている。入居者も訪ねてくる家族も、共にここでの暮らしを楽しんでいる、それを職員や地域の方々を支えている様子が伝わってくる。生活に品が感じられる施設である。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回、重度化した場合や終末期のあり方についての指針や話し合いは行われていたが、かかりつけ医との繰り返し話し合いはまだ行われていない状況であった。今回はかかりつけ医と連携しながら重度化した場合の取り決めや話し合いが随時行われており、スタッフ間で共有が図られている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>評価表は受付の誰にも見られるところに置かれており、評価項目に関してスタッフ会議の折に業務の振り返りに活用されている。入居者のご家族やスタッフと一緒に評価の内容を理解し、スタッフ会議や業務の中で話し合いが行われている。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議では、入居者の状況や行事の報告、認知症について理解を深める話し合いを地域の区長や家族代表、スタッフと共に進められている。時には施設の行事に参加してもらいながらそこで出た意見をサービスの向上に活かされている。この会議の開催によりグループホームの役割や認知症への理解が地域に深まりつつあり、より広い範囲にこの取り組みを広げていきたいという熱意が感じられる。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>運営推進会議に家族代表の方に交代で参加してもらい、家族に意見や思いを聞き取り組みがなされている。また、苑便りに苑での暮らしぶりを写真入りで詳しく紹介したり、利用者ごとに個別に健康状態やいろんなエピソード等も報告し家族との信頼関係もしっかり構築しており、面会の時など家族とよく話をして思いを聞き出すように努められている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>自治会の集まりの時に、認知症やグループホームについての講話を行ったり、コンサートや開苑記念の行事など、地域の方が多く集まってこられるようになってきている。近所の方との交流が着実に深まってきている。</p>

2. 評価結果（詳細）

（ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	豊かな自然環境の中で、季節や文化を通じて感性や感情を呼び起こし、地域に根づいた生活を支援していくという理念が、開設以来培われており、毎日の実践を通して理念の具体化が図られている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	月1回のスタッフ会議や業務の折に、地域の中でその人らしく生活していくことの意味を、繰り返し思い出し、理念を確認する取り組みが常々行われている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	毎年4月の地元自治会総会では、認知症についての講話を行い、グループホームの役割など働きかけを行っている。また、苑の行事の際は、積極的に地域の方に呼びかけを行い多くの参加を得ている。地域との交流は年を追うごとに深まりつつある。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	サービス評価を受けることによって、日頃行っているケアの振り返りになっている。入居者のご家族やスタッフと一緒に評価の内容を理解し、スタッフ会議や業務の中で話し合いが行われ、具体的な改善に向けて取り組みがなされている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、2ヶ月毎に地域の区長や家族代表等を招いて開催されている。入居者の状況や行事の報告、認知症について理解を深める話し合いが行われており、時には施設の行事に参加してもらいながら、そこで出た意見をサービスの向上に活かされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営者が必要に応じて直接市役所に出向き、担当の部局と気軽に何でも聞き合える関係が出来ている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月初めに請求書と苑便りを郵送し苑での暮らしぶりを写真入りで詳しく紹介している。それとは別に管理者が入居者ごとに個別に健康状態やいろんなエピソード等も報告し家族との信頼関係もしっかり構築されている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	2ヶ月に1回の運営推進会議に家族代表も交替で出席してもらい、いろんな意見を出してもらおうようにしている。また、面会の時など家族の不安や悩みを積極的に聞くように心がけており、家族の意見や苦情が施設の運営に反映させるような体制が出来ている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動は開設以来数名で、入居者や家族との馴染みの関係が出来上がっている。職員の離職があった場合でも、入居者へのダメージを防ぐ配慮が行われている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の案内があった場合は全職員に周知し、参加を希望する職員にはできるだけ参加できるように支援している。毎月のスタッフ会議の折には、研修の報告など行っており、フランチャイズの研修会にも積極的な参加を勧めている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者や職員はフランチャイズの勉強会や訪問研修に参加し、他の施設の職員と交流する機会が設けられている。そのことによりお互いの施設をより客観的に見ることができ、施設サービスの質の向上に取り組まれている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居者や家族に施設の中をよく見てもらい、サービスの内容を充分理解した上で、納得して入居してもらっている。入居者、家族と職員が馴染みながら関係を深める取り組みがなされている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	本人のペースを大切にしながら、自然に共に一緒に過ごす時間がつくられている。職員は入居者の話を聞いたり学んだりしながら、共に支えあう関係が築かれている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族や入居者との結びつきを深めていく中で、心身情報シートを活用し入居者の希望や思いを職員全員が記入し、それを共有することにより、本人の思いや意向の把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画は、事前に全職員の気づきや意見やアイデアを出し合い、また家族に手紙で意見を尋ねた上で、サービス担当者会議を行い作成されている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の期間にとらわれず、状態の変化に応じてサービス担当者会議が開催され、変化に即した計画がつけられている。また、変化がない場合でも3ヶ月に1回見直しが行われている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	車椅子が乗れる車を準備して、家族の要望に応じて貸し出しを行っている。また、家族が対応できない場合は職員が外出や小旅行に同行することも行われている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望を大切に、それぞれのかかりつけ医に継続して受診してもらっている。往診やかかりつけ医の受診などきちんと状態を報告し、適切な医療が受けられるように支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合や終末期の対応については、行事等家族と会う時に、ホーム内でできること、できないことを説明している。また、かかりつけ医と連携しながら重度化した場合の対応をスタッフ間でも話し合われている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者の個人情報に関する書類は、すべて事務室に保管し、印刷物に掲載する写真などすべて家族の了承をもらっている。個人情報やプライバシーの保護について十分な配慮がされている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者に合わせて生活のリズムを大切に、それぞれの方の希望やペースで過ごしてもらっている。朝の掃除、お茶を飲みながらの語らいなど、ゆっくりとした雰囲気の中で、その人らしい暮らしが実現されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者が少しでも調理に係われるように、状態に応じて準備、片付けなど一緒に行っている。入居者に昔の懐かしい料理や好きなものを尋ねながら、食事を楽しむ工夫が行われている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は午後から行われているが、入居者一人ひとりの状態や希望に合わせて、毎日入れるようにされていた。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者の能力や一人ひとりの生活歴、特技を活かした取り組みが行われている。それぞれが自分の特技や役割を活かし喜びを持って生活できるように支援されている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	事業所の中だけで過ごすことがないように、散歩や定期のゴミ出しを一緒にしたり、買い物に誘うなど一人ひとりの希望にそって戸外に出られるように支援を行っている。また、年に数回は季節のいい時に外出も行っている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	入居者の行動を理解し、鍵をかけないよう努力はされている。しかし、入居者の安全性を考慮し見守りを行っているが、職員体制上鍵をかけざるを得ないこともある。	○	入居者の転倒防止、安全への配慮も充分図りながら、鍵をかけないよう職員、家族で話し合いを続けて行かれることを期待する。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	毎月月初めに入居者が緊急時安全に避難誘導できるように避難の方法を確認している。また、年1回近所の救急救命士に来てもらい地域の方も参加してもらい消火訓練や緊急救命の方法など講習を受けている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日に30品目の食材を摂る様に、食べる量や切り方など個人の状態に合わせて工夫されている。カロリーよりも栄養のバランスと食事の楽しさを考えた食事作りがなされている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ほとんどが昼間はホールで過ごされることが多い。光がいっぱい入る南向きのホールからは、豊かな田園風景がひろがり居心地のよい空間をつくっている。玄関やホールの壁には季節を感じさせる飾りもあり、居心地よく過ごすための工夫が行われている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の時にご家族に話をし、入居者の希望の家具などを入れてもらい、写真や自分の描いた絵なども飾られていた。本人にとって何が居心地がいいのか、常にスタッフは家族と話し合いを行いながら、居心地よく過ごす為の工夫がされている。		